研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-11C		21-084	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Global, regional, and national cancer deaths and disability-adjusted life-years (DALYs) attributable to alcohol consumption in 204 countries and territories, 1990-2019

204 カ国と地域における飲酒に起因する世界、地域、国のがん死亡数および障害調整生存年（DALYs），1990-2019 年

執筆者

Safiri S, Nejadghaderi SA, Karamzad N, Carson-Chahhoud K, Bragazzi NL, Sullman MJM, et al.

掲載誌

Cancer. 2022 May 1;128(9):1840-1852. doi: 10.1002/cncr.34111.

キーワード	PMID
アルコール、がん、死亡、障害調整生存年、世界疾病負荷	35239973

要　旨

目的：飲酒は、いくつかの種類のがんを含む、多くの感染性および非感染性疾患の危険因子である。204 の国・地域について、1990-2019 年における飲酒に起因するがんの死亡数および年齢調整死亡率（世界、地域、国別）、障害調整生存年（DALYs）を、年齢、性別、場所、社会人口統計指数（SDI）、がんの部位別に報告する。

方法：データは、比較リスク評価アプローチにて 1990-2019 年の飲酒に起因するがんの負荷を報告した 2019 年世界疾病負荷調査から提供されたものを使用した。

結果：2019 年においては、飲酒に起因するがん死亡数は、推定 494.7 千人(95%不確実性区間[UI],439,700-554,100)で、がん関連死全体の 4.9%(95%UI、4.4%-5,4%)であった。飲酒は 1,300 万がん障害調整生存年(DALYs;95%UI,11,600,000-14,500,000）に寄与し、飲酒に起因する DALY は、女性(250 万,95%UI,2,200,000-2,900,000)よりも男性(1,050 万,95%UI,9,200,000-11,800,000)で非常に多かった。飲酒に起因するがんの年齢調整死亡率および DALY 率は、調査期間中にそれぞれ 14.7%(95%UI,6.4%-23%)、18.1%(95%UI,9.2%-26.5%）と減少していた。地域別では、中央ヨーロッパは、10 万人あたりの飲酒に起因する年齢調整死亡率が最も高かった(10.3;95%UI,8.7-12.0)。さらに、SDI と飲酒に起因するがんの地域別年齢調整 DALY 率との間には、全体的に正の関連があった。

結論：飲酒に起因するがんの負荷は 1900 年以降減少しているものの、死亡者数および DALY は依然として高い水準にある。男性、高齢者、先進国（SDI に基づく）でより高い負荷があるため、予防プログラムではこれらのグループや地域を優先すべきである。